

令和7年度 学校関係者評価書

<p>未来を拓く学力</p>	<p>ICT機器を活用した授業を通して、児童が主体的に学習に取り組む姿が見られた。調べ学習や発表活動において、理解を深める手立てとして有効に活用されている。</p> <p>また、織田小との交流授業により、多様な考え方や価値観に触れる機会を積極的に設けていた。さらに、ふるさと学習を通して、地域の良さや魅力に気づかせ、ふるさとへの理解を深めている。加えて、対話を重視した学習活動を通して、自分の考えを整理し、相手に伝える力を育てていると感じた。</p> <p>これらの取り組みを通して、児童は自ら考え、他者と関わりながら、未来を拓く学力を身に着けられたと評価する。</p>
<p>豊かな心と健やかな体</p>	<p>児童主体による計画・実践は、少人数制クラスの特性を生かした取り組みとして評価できる。互いを認め合う人間関係が形成されており、自分の意見を安心して表現できる環境が整っている。</p> <p>また、仲間の存在を意識し、共に学び合う姿が見られ、協調性や他者を尊重する態度が育まれている。これらの力は、将来社会の組織の一員として生活する上での基盤となるものである。</p>
<p>職員の働き方</p>	<p>健全な教育活動の実現には、教職員の心身の健康が確保されていることが前提である。その実現に向けて校内OJTの活用を推進し、業務の効率化や負担軽減に取り組んでいることが見受けられる。</p> <p>また、超過勤務時間の縮小に向けた具体的な取り組みが進められており、教職員による自己評価においても「A」と評価されていることから、健康でいきいきと勤務できる環境づくりがおおむね構築されていると考えられる。</p> <p>一方で、学校再編後においても、労働環境の改善を継続的に実施していくことが必要である。</p>
<p>その他学校教育全般</p>	<p>年間を通して、学校再編に伴う環境の変化に配慮した教育活動が行われており、学業・心の両面においてスムーズな移行が図られていたと評価できる。</p> <p>学校再編により、児童を取り巻く環境は大きく変化するが萩野小学校において育まれた学習態度や人間関係、他者を思いやる心は、今後の学校生活においても生かして行ってほしい。</p>